

1/26取材

原発への怒り 講演

福島・双葉町 井戸川前町長、敦賀で

福島県双葉町の前町長、井戸川克隆さん(67)が25日、敦賀市内で住民ら約100人を前に講演した。東京電力福島第一原発事故の経験を踏まえ、再稼働を容認する政治家や経済界に「事故が起きた時は全責任を負う」と、住民と契約を交わすべきだ」と訴えた。

市民団体「サヨナラ原発福井ネットワーク」の主催。井戸川さんは昨年2月



まで町長を務めた。原発事故ではさいたま市に町民を市に役場を移した。避難中に放射性物質を含んだぼたん雲が頭上に降りかかり、

「これで(人生が)終わつたと思った」と振り返った。町民は今も地元に戻れない。「私たちはいま仮設住宅にいる。やることもなげ、閉じこもっている人が多い」と、郷里を奪った原発への怒りを口にした。

まもなく事故から3年。しかし、国中が「東京オリンピックに浮かれている」と、被災者支援への関心が薄まっていると心配した。

敦賀市など嶺南地域では原発の再稼働を望む声が大きい。井戸川さんは原発の「安全神話」が崩れた今こそ、「前例のない事故を想定してほしい」と国や電力会社に安全対策の充実を注文した。

(堀田浩一)